

城里町の文化財さんぽ(二九)

県指定文化財(彫刻)

ちゅうぞうじゅういちめん

「铸造十一面

せんじゅかんのんぼさつぞう

千手観音菩薩像」

指定年月日／昭和四二年一月二四日

所在地／城里町塩子 管理・所有者／佛國寺



▲铸造十一面千手観音菩薩像

観音菩薩は、救いを求める人々の音声を観じて、直ちに救済するという菩薩です。救う相手に応じ様々に姿を変えることから、六観音や三三観音など多種の観音像が造られています。千手観音は六観音の一つで、「千手」は救済する範囲が無限であることを意味し、一般に一個の仏面と四二本の手(腕)を備えた姿で表現されています。県指定の「铸造十一面千手観音菩薩像」は、蓮台の上に立つ

像高約五七(現高五〇)センチメートルの金銅仏です。王冠状に開く九個の小仏面・胴体・四本の手(白掌手と宝鉢手)・足先までを一つの型で鑄し、三八本の脇手等をそれぞれ別に鑄して本体に取り付けています。今日では、頂上仏面や脇手等を欠失し、本来の姿を拝観することはできませんが、口元に微笑をたたえた穏やかな顔は、観る人の心を和ませてくれます。本像の製作年代は、衣文の表現等から室町時代末期ないし桃山時代初期とされています。「铸造十一面千手観音菩薩像」は、現在茨城県立歴史館に寄託され、大切に守られています。解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一 写真提供／茨城県立歴史館

問合せ 教育委員会事務局

☎029-288-3135

俳句

縹雲水溜りにも映りけり

鯉淵 寿美恵

一片のつかず離れずいなし雲

今瀬 多代美

鬼やんま東櫓の梁太し

綿引 英子

刈田道急ぐ母子の影二つ

森 静江

新涼の指よりこぼす種光り

仲田 まちゑ

幾万のすだく虫ゐて我ひとり

中野 千賀子

文芸しろさと

短歌

転ぶまいころば寝たきり転ん

だら家族に心配かけるがつらい

山形 式妙

ちぎれ雲流れてはまた寄り添ひて

人の世のすぎゆきを見るごとくして

青柳 京子

ハクピシンのいたずらさけて早

々とトウモロコシに袋掛けたり

杉山 みちこ

昏れてゆく広い屋敷に一人佇ち

よみがえりくる日々をいとしむ

大森 久子

四歳の小さき瞳に映りしか

初めて螢の飛ぶを見し夜の

渡辺 千紗子

高原や穂芒の揺れ静かにて

飯村 昭子

水の秋三十年の物干台

竹内 幸子

手を上げて再会の友秋深む

瀬谷 博子

デイ敬老カラオケ九十路軍歌かな

岩下 金司

ぼうぼうと雨中に燃ゆるさすべり

田口 勝元

声の主白萩わけてあらわる、

寺門 孝子

川柳

探し物思い出せずにうろうろし

富田 多蔵

バスデイ花束よりも祝ケーキ

車田 綾子

「パー」でいいグランドゴルフ

今日もまた

里山のドラマいっぱい神無月

飯村 孝一

川原 清



CDを聞けばひさしく流れ

くる「三橋美智也」の民謡の歌

終戦と聞きしあの日の安堵

感七十余年経しも忘れず

夕焼けは棚引く雲を赤く染

めひぐらし鳴きて半月高し

鬼灯の色鮮やかに送り盆日

毎夜毎に想いを馳せて

空見上げ小さな星の輝きに

願い託さん老いの身なれば

「ダブルケア」を話題に掲げ映

りいるテレビに辛き日々廻る

萩谷 登喜子

